

エリアウエツ?

峡東教育事務所
 地域教育支援スタッフ
 TEL 0553-20-2731
 FAX 0553-20-2733

◎回覧・配付をお願いします。増し刷り配付はご自由にどうぞ。山梨県庁のホームページでも掲載中です。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

◎ご意見・ご感想、情報提供はこちらまで。E-mail: hirayama-atxj@pref.yamanashi.lg.jp

「ひび割れ壺」の話



インドのある水汲み人足は、二つの壺を持っていた。

天秤棒の端にそれぞれの壺をさげ、首の後ろで天秤棒を左右にかけて、彼は水を運びます。

その壺のひとつにはひびが入っています。もうひとつの完璧な壺が、小川からご主人様の家まで一滴の水もこぼさないのに、ひび割れ壺は人足が水をいっぱい入れてくれても、ご主人様の家に着く頃には半分になっているのです。

完璧な壺は、いつも自分を誇りに思っていました。なぜなら、彼が作られたその本来の目的をいつも達成することができたから。

ひび割れ壺は、いつも自分を恥じていました。なぜなら、彼が作られたその本来の目的を、彼は半分しか達成することができなかったから。

2年が過ぎ、すっかり惨めになっていたひび割れ壺は、ある日、川のほとりで水汲み人足に話しかけました。

「私は自分が恥ずかしい。そして、あなたにすまないと思っている」

「なぜ、そんなふうに思うの？」

水汲み人足はたずねました。

「何を恥じているの？」

「この2年間、私はこのひびのせいで、あなたのご主人様の家まで水を半分しか運べなかった。水がこぼれてしまうから、あなたがどんなに努力をしてもそれが報われることがない。私はそれがつらいんだ」

壺は言いました。

水汲み人足は、ひび割れ壺を気の毒に思い、そして言いました。

「これからご主人様の家に帰る途中、道端に咲いているきれいな花を見てごらん」

天秤棒にぶら下げられて丘を登っていくとき、ひび割れ壺は、お日様に照らされ美しく咲き誇る道端の花に気づきました。

花は本当に美しく、壺はちょっと元気になった気がしましたが、ご主人様の家に着く頃には、また水を半分漏らしてしまった自分を恥じて、水汲み人足に謝りました。

すると彼は言ったのです。

「道端の花に気づいたかい？花が君の側にしか咲いていないのに、気づいたかい？ぼくは君からこぼれ落ちる水に気づいて、君が通る側に花の種をまいたんだ。そして、きみは毎日、ぼくたちが小川から帰る途中、水をまいてくれた。」

この2年間、ぼくはご主人様の食卓に花を欠かしたことがない。君があるがままの君じゃなかったら、ご主人様は、この美しさで家を飾ることはできなかったんだよ」
(作者不詳 菅原裕子訳)

引用:「思春期の子ども心のコーチング」

リヨン社 菅原裕子著

(引用につきましては、著者の了解を得ています)

ひび割れ壺は、いつも道端に水をこぼし、半分の仕事しかできない自分を恥じていました。しかし、ひびのおかげで、花を育てることができました。そのひびに気づいてくれた人がいたから・・・。

子育ても同じです。私たちもこの壺のようにひびを持っています。自分や子どものひびを責めるのではなく、それを受け止めて、水汲み人足のように、花の種をまき、花を咲かせる手助けができるよう心がけたいですね。

夏休みボランティアスクール



今年は例年になく猛暑となりましたが、夏休みのボランティアスクールに多くの小中学生校生が参加し、「人の役に立つ」「思いやり」「感謝」「命」についての心を育む体験をしました。

笛吹市社会福祉協議会では、各地域事務所主催で世代間交流、パパ・ママ体験、環境ボランティアなど、普段体験できないことを通して、職業やボランティアについて学ぶ機会を設定しました。

御坂地域事務所では、御坂中学校生を対象に、小さな子どもたちとのふれあいを通して命の大切さを考えようという趣旨のもと7月28日・29日の両日、「きつず みさか」でスクールを実施しました。

夏休み中のため、学童と支援センターを利用する多くの子どもたちでセン



ター内はいっぱいでした。庭でサッカーやかけっこ、部屋ではトランプやドッジボールをするなど、とてもにぎやかな空間でした。

この体験に参加した3年生5人、1年生1人は、担当を割り振られ、子どもたちと交流をはかりました。大きいお姉ちゃんに甘えたい子どもが多く、手をつないだりおんぶをせがんだりする子どももいました。参加者からは「子どもたちが積極的に接してくれた」「予想以上に元気だった」「こういう体験はなかなかできないので、また参加したい」という感想がありました。



山梨市の社会福祉協議会では、ボランティアチャレンジ2010を行いました。これは、子どもたちに様々なボランティアを体験してもらう企画で、手話体験、ワーク交流、デイサービス・ミニデイ体験、アイマスク体験、点字体験等を事前学習と体験の全2回で実施するものでした。「事前に学習することで、体験するときの心構えや行動に違いが出ます」と担当者の方が話をしてくれました。

つどいの広場「たち」交流の1回目は、山梨市の保健師さんによる命と育児についてVTRなどで学習したあと、専用の装具をつけて妊婦さん体験や赤ちゃん人形のだっこの体験をしました。

参加した児童は、「私たちは選ばれて生まれてきたということに驚いた」「赤ちゃん人形が重かった」という感想をもちました。実際に赤ちゃんに接する時の注意など聞き、2回目の体験につなげられるよう、1つ1つ動作を確認する姿が印象的でした。



三富子どもクラブ、日の出子どもクラブ優勝



8月14日(土)に、山梨市民体育館と山梨市民スポーツ広場において、山梨県子どもクラブ連絡協議会主催の「山梨県子どもクラブ親睦球技大会」が開催されました。各郡市の試合を勝ち抜いてきたチームで競われました。峡東地域では、ソフトボールに下平井(笛吹)、諏訪(山梨)三富(山梨)、バレーボールに、前回優勝の河内(笛吹)、日の出(笛吹)、市川(山梨)、七日市場(山梨)勝沼(甲州)が試合に臨みました。



当日は、朝早くから、山梨市民体育館に、県内から多くの選手が集まりました。チーム編成は、小学生から中学生の異年齢集団で、地域の子どもの交流が深まりました。ソフトボールは三富、ソフトバレーボールは



日の出がそれぞれ優勝しました。子どもたちはプレー中に声を掛け合い、ナイスプレーの時には応援席からも熱い声援が送られていました。

保幼小中連携のための講演会

〈 講演する文珠先生 〉

8月20日、甲州市民文化会館に県立大学看護学部の文珠紀久野先生を招き、「関係を生かした連携を求めて」という演題で、「保幼・小・中の教員に求められる連携」や「子どもと親の気持ち」を、臨床心理士という立場からお話をいただきました。

前半は、連携について、保幼・学校、教員間、子ども同士の連携の方法や連携をする場の設定についてご示唆をいただき、後半は、保幼から小へ、小から中へと、それぞれの段階における、子どもや親の気持ちを具体的に話していただきました。

「連携は、相手の気持ちをまず理解するところからはじまり、いろいろなサポートをしていくためには、豊かなりソース（資源）が必要になります」。先生の大阪弁を交えたテンポよい口調は親しみやすく、子どもや親の心理の話では、メモを取りながら真剣に聞き入る参加者の姿がありました。



参加者の感想



〈 講演会の様子 〉

- ◇ 就学前後の子どもや親の心理がよく理解できました。連携のためには、このことをよく理解し、それぞれの教師同士がまず話し合いの場をもつことが大事なんだと思いました。
- ◇ 交流の場を「普通の授業で」という提案はとてもよく理解できた。お互いに普段の様子を見ることで、子どもの実態がわかるのだと思った。本校でも授業参観をしているので、特別なことではなくいつもの小学校の様子を伝えたいと思う。できれば保護者に一番見て欲しい。
- ◇ 私たち現場が感じていることを、とても理解してくださっていてとても聞きかったやすかった。これから連携を深め、子どもと保護者を支援していきたいと思いました。

パソコン教室 ことぶき勸学院東山梨学園

7月28日塩山高校において、ことぶき勸学院(東山梨学園)の2年生がパソコン教室に参加しました。パソコン操作が初めての方から趣味などでの俳句や日記をパソコンで書いている方もおり、2つのコースに分かれました。

どのコースも塩山高校の先生が前に立ち講義を行い、情報システム科と情報処理研究部の2・3年生が勸学院生の隣に座り、アシスタントティーチャーとなって操作のサポートをしました。

普段高校生と会話する機会がない勸学院生は、パソコンの操作方法を学ぶだけでなく、地域の高校生との交流ができました。また、高校生は、日頃学んでいることを「教える」という立場で生かし、コミュニケーションを取りながら活動していました。こんな世代を超えた交流も地域ならではの交流だと思いました。



お知らせ

甲州子どもフェスタ

日時 11月5日(金) 10時~14時
場所 塩山ふれあい館(ふれあい公園)
問い合わせ 甲州市役所子育て対策課

0553-32-5081

子育ての輪が広がり、さらなる子育て支援の充実をはかるためのフェスタ!是非ご参加を!

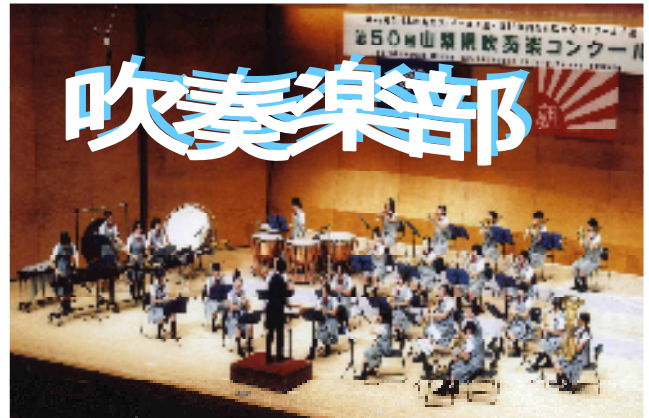
ベビーマッサージやちびっこお話し会、親子であそぼ!

歯科相談、手ばかり、おもちゃの交換、育児相談、軽食などに加え、今年は「お母さんのためのミニ子育て講座」も予定しています。

2010 塩高の熱い夏



今年度、塩山高校では、運動部・文化部ともに県大会で上位の成績を残し、関東大会や全国大会に出場しました。
相撲部の楠 龍一君は、関東大会で優勝、全国7位、放送部は全国総文祭放送部門で全国5位の審査員特別賞を受賞しました。



山梨県吹奏楽コンクール **金賞**
西関東吹奏楽コンクール出場



全国総文祭放送部門 オーディオビジュアル部門
審査員特別賞



書道部 藤原芽生さん
県芸文祭 **芸術文化祭賞**



相撲部 楠 龍一君
関東高校相撲大会軽量級優勝
全日本ジュニア選手権 七位



野球部 丸山大河君(右)
米国 国際交流親善大会
県代表選手
宿澤監督と共に出場